

令和２年度 第３回学校運営協議会 議事録

日時 令和３年１月２２日（金）18:00～19:30

場所 布施高校文化会館

構成員

委員（出席者）

東大阪市立長栄中学校校長 北村 和久 様

八尾市立八尾中学校（夜間）教頭 辻 巧 様

（株）ベレーザコーポレーション 入江 孝吏 様

近畿大学アドミッションオフィサー 松浦 正明 様

保護者会会長 大西 克子 様

本校より

准校長、教頭、事務部長、主査、首席・生徒指導主事、教務主任、進路指導主事、１年学年主任

委員（欠席者）

星陵同窓会副会長 八木 佳奈枝 様

１．准校長挨拶

２．議題

（１）令和２年度第２回授業アンケート結果について（１２月実施）

質問③～⑨について、過去最高の結果が出た。これは、昨年度を通して継続的に実施したパッケージ研修を今年度は授業改善 PT が主体となる研修を継続実施している結果と捉えている。

また、この数値は非常勤講師も含まれたものである。

各教科について

国語、地歴公民科、理科、外国語、保健体育科はともに堅調な数値となっている。

数学は質問③で否定的な意見が多かったが、これは内容の難しいものに取り組んでいるためである。

最後に「総合的な探究の時間」「総合的な学習の時間」について

質問①、⑧、⑨について学習意欲、興味関心、学習習得、総じて、授業改善については成功したと考えている。

（２）学校教育自己診断結果（教職員用・保護者用・生徒用 １１月実施）

○教職員用について

昨年度大幅変更したので、今年度は変更はなし。新たに１項目増やし、全部で３３項目実施。

実施時期については、10月の考査後の11月に実施した。

【否定的な項目】

設問19) 人権尊重に関する様々な課題や指導方法について、全教職員で話し合っている。

(肯定率 33%) 人権教育推進委員会とLHR委員会が協議し、入学から卒業までの4年間を見通した計画が立てられ実施されているが、各学年が自学年のみの指導で手一杯になって全学年で協議・検討する機会が設けられていないことが要因とされる。

○保護者用について

「子どもは、授業が楽しくわかりやすく楽しいと言っている。」(肯定率 77%)

「子どもは学校に行くのを楽しみにしている。」(肯定率 77%)

その他の全ての項目において75%を超えており、肯定的に捉えてもらっていると考ええる。

○生徒用について

【否定的な項目】

設問1)「学校へ行くのが楽しい。」について3年・4年が低い。

設問3)「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがある。」今年は総合的な探究の時間の授業方法を変更したので、実際に発表する機会が減ったのが影響していると思われる。

【肯定的な項目】

設問14) 命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。(肯定率 78%)

設問15) 人権HRや講演会を通じて、人権についての意識が高まった。

(肯定率全体 78% 1年生 92%)

教員用アンケートでは人権教育について学校全体で話し合っているの肯定率が33%ではあったものの、生徒からは人権教育の機会に触れ人権意識が高まっているとの肯定的な回答が得られている。

【気になる項目】

設問6) 遅刻や欠席をしないようにしている。

全体の肯定率が年次が上がるごとに年々下がっている。

「子どもは学校に行くのを楽しみにしている。」

全体的には肯定的に捉えてもらっていると考えている。

(3) 各分掌の取り組みについて

○教務部

1. 在籍数

訂正：4年生の生徒数 11名 全校生徒 80名

2. 報告について

①0限授業の実施

希望者を対象に、基礎学力の向上を目的に個別学習を行う。

国語：7人 数学：6人 英語：7人 日本語：3人

②基礎学力検査（6月実施）

1年生対象の基礎学力検査の内容を精査し、より授業に沿った内容へと変更。

この学力検査の結果を踏まえて0限授業参加への声かけを行った。

③学習支援員について

学習支援員1名・教育サポーター1名の活用。

授業等で入り込みでの学習サポートを行った。

④土曜講座の実施

広く教養を身に付けたい生徒を対象に希望者を募り、「美術」「パソコン」「サブカルチャー」の3講座を実施。

生徒へのアンケート調査の結果、講座の内容が当初に想像していたものではなかったという意見があった。来年度からは希望者を募る際に今まで以上に授業内容の具体的な説明を行うべく伝え方の変更を検討している。

⑤土曜日授業の実施

年度当初の新型コロナウイルス感染症による2か月間の臨時休校があり、授業日数を確保するために土曜授業を年間10日実施したが、生徒が仕事のシフトを変えられない等の理由もあり、出席率が悪かった。

⑥その他

- ・総合的な探究の時間の実施

- ・授業改善PTによる教員研修の実施

（生徒からの一定の評価があったので、名称変更して来年度も継続）

- ・新教育課程表作成

「ビジネス〇〇」という学校設定科目を設け、社会人として必要な知識・技能の定着を図る。

○生徒指導部

1. 喫煙について

生徒数の減少により、喫煙する生徒の数も減少している。しかし、学校の外周のたばこの吸い殻は相変わらず多い。周辺の住民や歩行者によるものかは判別がつかない。

- ・喫煙以外の懲戒

バイク登校、自動車登校が合計 12 件。(生徒指導注意・校長訓告・停学)

2. 行事について

体育祭・文化祭ともに出席率 85 %を超えた。(昨年度、体育祭 73%、文化祭 79%)

3. 取り組み・経過について

①正門指導

目的：生徒の安全を守る、校外徘徊を減らし、喫煙の未然防止。

課題：昨年度に比べて大幅な改善がみられるが、安全面や校外でのトラブル発生を考慮すると外出を禁止するのが望ましいと考える。

外出数：1 年生 0 回、2 年生 27 回 (1 年次 267 回) 3 年生 136 回 (2 年次 240 回)
4 年生 99 回 (3 年次 210 回)

- ・例年 2 年生になると学校に慣れて外出が増えるが、今年度はそうではなかった。
2 年生への指導は効いているのでそれを今後も続けたい。

②スマホ指導

目的：授業中のスマホの使用を禁止することで集中して授業に取り組む姿勢を育む。

課題：例年学年が上がると使用件数が増加するが、昨年度の取り組み強化の結果、今年の 2 年生は減少に至った。来年度以降も継続していきたい。

③図書館利用について

目的：授業中の徘徊をなくす。授業に入れない生徒の居場所づくり。

課題：昨年度の授業中の徘徊数を大きく下回った。

授業をさぼって、図書室に居座り続ける生徒への対応のため、
1・4 限目は開けないことの検討。

5. 保健室の利用状況

例年 11 月から保健室利用生徒が増えているが、今年度はそれが抑えられている。

保健室利用の利用率減少とさぼりの防止のための図書室の利用制限が授業を大切にするための規範づくりとしては成果が出ていると思われる。その反面、生徒アンケートでは「設問 12) 教室以外に、保健室などの落ち着ける場所がある。」回答が前年度の 72.9% から 62.1% の減少が見られた。一年生の回答率が 85.7% だったことを考えると、図書館利用が授業をさぼる溜まり場になっていたことも考えられるが、本当にしんどい生徒、授業に入れない生徒の気持ちを切り替える場所としての利用も見込めることから、今後どのような運営をしていくかは慎重に進めていくべきだと考える。

○進路指導部

1. 就職指導（7月末～）

- ・新型コロナウイルス感染症の関係で進路指導が例年に比べ、一カ月押したスタートとなった。
- ・ジョブチャレ・インターンシップは本年度中止。
- ・就職指導についてはハローワークと連携するもハローワークの求人数も三割程度減少。
高卒求人のみでなく、一般求人も視野に入れての指導も進めているが、新型コロナウイルス感染症のためか安定した職種を希望する生徒が多く、倍率の多い就職先を求めるために競争率が激しく、厳しい状況。
- ・現在、放課後、就職支援の実施（進路未決定者に対する進路相談）・履歴書指導・面接指導等を行っている。
- ・就職希望者の応募前職場見学 27 社（1月6日現在）
- ・求人での内定は一社、その他就職内定は2名、専門学校5名

2. 進学指導

- ・専門学校5名：東大阪大学短期大学部 実践食物学科 製菓衛生師コース
修正建設専門学校 建築学部 住環境リノベーション学科
大阪デザイナー専門学校 イラストレーション学科
大阪観光専門学校 エアポート専科
大阪航空専門学校 航空整備士学科
- ・放課後指導（教科指導/小論文指導/レポート指導/面接指導）

3. 家庭学習時間調査（臨時休校期間に実施）

- ・社会に出たとき（就職したとき）に仕事のプレッシャーに耐えられない等、様々な理由で継続せずにすぐに辞めてしまうケースが多い現状。社会に出たときに必要な「知識」・「技術」・「忍耐力」・「人間性」を育むための事前調査として行った。内容としては「日記をつける」、「家庭での学習時間の調査」、「睡眠時間の調査」を主に行った。その結果として、日記を毎日付けられない忍耐力のなさ。家庭での学習時間が極端に短い。仕事についている者は睡眠時間が短く、それ以外は長い、また昼夜逆転している生徒がいることがわかった。この結果を受けて、社会に出たときに必要な「知識」・「技術」・「忍耐力」・「人間性」をどのように育んでいくのが今後の課題となった。

4. 次年度の進路行事

議題（１）～（３）までの質問・意見

辻：卒業予定者数の一名が卒業できないことが決まっているようだが、詳細は…？

また、外国籍の生徒の人権侵害等はないか？教員間では人権意識が低いとアンケートにあるが、改善できるところは改善願いたい。

教頭：人権意識が低いのは人権のテーマの研修等が新型コロナウイルス感染症の対応に時間を人手をとられて、去年と比べて時間的に取れなかった。各学年の人権 HR が他学年に十分共有する時間が取れなかった。人権教育については、人権教育推進委員会と LHR 委員会が十分協議して、生徒向けには 4 年計画で行い、人権意識を育むこともできているとアンケート結果にもでている。カリキュラムでの人権 HR がない、教員や生徒の人権意識が低いという意味ではない。

入江：入学してから卒業する生徒数【率】は？

青柳： 4 年前 36 名入学、現在は 16 名

入江：土曜授業、土曜講座等で教員は休めているのか？

次年度からのビジネス数学など実生活と直結し、役に立つことを授業でもらえるのはありがたい。将来の進路を考えるきっかけが多いのはいい反面、年次が進むごとに、学校に行くのが楽しくないというアンケート結果が増えるのは、自分の人生にちゃんと向き合っているからつらいと考えていると捉えれば、良い側面でもあるのではないかな？

准校長：数字だけでは推し量れない部分はある。各学年ごとにも違う側面があるので一概には言えない部分がある。

北村：学校にいくのが楽しいの項目を筆頭に、記述式でもよいのではないかな？

なぜ、1・2 年だけ校外外出アンケート結果の件数が少なく良い結果なのか？

溝畑：クラス内で外出を誘う人がいないのと、クラス内で居心地のよいクラスづくりができてから。社会人としての必要な規律の醸成を各担任が徹底している成果が出ている。

（４）協議：今年度の取り組みを評価する

・令和 2 年度学校経営計画について

目指す学校像、1. 確かな学力の育成

2. 豊かな人間性と「社会の一員」としての自覚の醸成

3. 生徒支援と安全安心な学校づくり

4. 学校運営体制の改善と人材育成

を柱として取り組んだ。

1、確かな学力の育成

（１）基礎的な知識・技能の定着を図り、社会人としての常識を身につける

- ア) 布施高校定時制独自の「学力診断テスト」により生徒の学力を把握し、授業と合わせて必要がありそうな生徒には0限授業の受講を勧めるなどした。また、少人数での授業展開・TTでの授業展開を行うなどして、教職員学校教育自己診断「到達度の低い生徒に対する学習指導」の肯定率が昨年度の61%から80%に上がった。
- イ) 授業改善PTを立ち上げ、主体的対話的で深い学びを取り入れた授業に向けて授業改善を行い授業力の向上を図った。生徒の授業アンケート「授業理解度」の肯定率87.1%と目標の90%には届かなかったものの、学校全体としては昨年度以上の取り組みができた。

2、豊かな人間性と「社会の一員」としての自覚の醸成

(1) 自己および他者への理解と自己有用感の育成

- ア) LHRや学校行事を通して各生徒に役割を持たせ、自己有用感を育むことにおいてはコロナ禍の中でも感染症予防対策を踏まえ思案しながら、できる限りの行事を行うことができた。また、生徒学校教育自己診断「行事が工夫されている」の肯定率75%と目標を達成することができた。
- イ) 学校における生徒の居場所づくりに関しては、部活動を居場所と位置付け、今年度は活動日の固定をすることで部活動加入率54.8%、教職員学校教育自己診断「部活動の活性化」肯定率47%と数値が大幅に改善された。
- ウ) 「あいさつ運動」による人間関係形成能力の育成に関しては生徒会による定期的なあいさつ運動の展開などを行った。また、教職員学校教育自己診断「生徒会を通して主体的に活動できるよう学校全体で支援」の肯定率73%の回答を得られた。

(2) 規範意識の醸成と自己管理能力の育成

- ア) 学校のすべての教育活動を通した規範意識の醸成を図るため、教員集団の意識改革を行うことにおいては、教職員学校教育自己診断「キャリア教育推進のために、教育活動全般にわたり、生徒の規範意識の醸成に取り組んでいる」の肯定率が60%で、目標の70%に届かなかった。引き続き取り組んでいきたい。

(3) キャリアプランニング能力の育成

- ア) 4学年を意識した系統的な進路指導を行うことにより、進路に対する意識を計画的に高め、生徒個人の職業観・勤労観の確立につなげるにおいては生徒学校教育自己診断「進路や生き方について考える機会がある」の肯定率90.9%と非常に高い数値であるが、進路決定率は50%であり、改善の余地がある。

3、生徒支援を中心とした安全安心な学校づくり

(1) 生徒の個に応じた支援と、生徒が安心して通える学校づくり

- ウ) 人権教育の推進(様々な人権課題への取り組み)について、4カ年を意識した人権HR

を計画し、学年別に「見える化」することで系統的に人権学習を行い、生徒の人権意識を高めることを目標と掲げた、生徒学校教育自己診断「人権意識が高まる」の肯定率 79.3%と高い数値を示したが、4年間（3年間）を見据えた系統的な人権学習を計画することはできず、教職員学校教育自己診断「人権尊重に関する様々な課題や指導方法について全教職員で話し合っている」の肯定率は33%であり不十分、次年度に向けて、改善の余地がある。

4、学校運営体制の改善と人材育成

（1）教職員の学校運営への参画意識の醸成

ア、イ）学校運営の確実な定着については、教職員学校教育自己診断「各分掌や各学年の連携」の肯定率53%は目標の65%には届かず。分掌等運営シートの導入については、分掌シートは准校長と意見交換し作成したが「見える化」し各分掌が連携するまでには至らなかった、教職員学校教育自己診断「教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担」の肯定率が53%と目標の60%には届かなかった。来年度に向けて改善の余地がある。

ウ）ミドルリーダーの育成と若手教員の参画意識の醸成について、若手教員中心に「将来構想チーム」を新たに立ち上げ布施高校定時制の今後の方向性について検討する機会を設けた。教職員学校教育自己診断「学校運営に教職員の意見が反映されている」の肯定率73%と目標の70%を達成できた。

（2）学び続ける教員集団の形成

イ）将来構想チーム、企画会議、運営委員会などを通して学校のニーズに合う研修の実施を行うことについて、教職員学校教育自己診断「校内研修の計画的実施」の肯定率60%と目標の50%を達成できた。

（3）勤務時間変更

ア）本校の実情に合わせた勤務時間の設定を行うことにより、時間外勤務の軽減を図ることについて、勤務時間の開始を15分遅らせることにより、授業の終了後の時間を少しでも確保することにより実際の勤務に即した時間設定を行った。4月～12月時間外勤務20時間以上の数が昨年度50人から31人に減少した。

今年度の取り組みについて質問・意見

辻：評価は数字を見れば上がっていて納得はいくものであるが、その反面、教員アンケートの意見では様々な委員会の掛け持ちや役割が多いとの意見がある。これは教員個人にしわよせがきていると見受けられる。教員がつぶれると生徒も学校も困るので配慮願いたい。

准校長：オンライン授業等の準備が緊急に入ったため、イレギュラーの業務が多くなってしまった。

(5) 令和三年度学校経営計画 まとめ

1、確かな学力の育成

- ・「授業改善P T」は今年度でアンケート結果からも生徒の授業に対する評価は十分なものとなった。今後は「授業力向上P T」と名称変更し、生徒の授業理解度 90%を目ざし、企画運営する予定である。
- ・総探P Tは4年間を視野に入れて企画運営するよう検討している。

2、豊かな人間性と「社会の一員」としての自覚の育成

(1) 自己有用感の育成

- ・生徒会活動、部活動の紹介などを応援する。
- ・あいさつ運動については生徒会を巻き込んで、活性化させていく。

(3) キャリアプランニング能力の育成

- ・職業観・勤労観の確立として、進路指導部と学年の連携を強化し、進路決定率を上げる。
- ・ジョブチャレの文言をなくし、もう少し広い枠で、アルバイト指導やインターンシップなどの職業体験を通して、離職率の防止を図る。

3、生徒支援を中心とした安全安心な学校づくり

- ・より実践的な避難訓練を継続する。
- ・4年間、3年間の人権HRを計画し、実施する。
- ・S C、S S Wの予算が減ることでのどのような影響が生徒や教員にでるか危惧している。
- ・さくら連絡網を引き続き活用する。また保護者の加入を促進する。
- ・コロナで学校訪問等が難しいときだからこそ、「布施定だより」の定期的な情報発信を引き続き行う。

4、学校運営体制の改善と人材育成

(3) 働き方改革に向けた

- ・「時間外勤務の実態把握」を行う。

質問・意見

松浦：今年はコロナで学習が難しい状況の中で、1年・2年はよく頑張っている。3年・4年もこのような状況になればよいと思う。次年度は「オンライン授業」や学校の教育を大きく変え

る「観点別評価」、「タブレットパソコン」など、色々とやらなければいけないことが多いので、その中で出来ることを着実に行えばよい。

入江：令和２年も、計画当初はコロナのことは計画に入っているわけではなかった。令和３年についても計画を頑なに実行するのではなく、コロナなど必要なことも出てくるので、必要なものを優先的に行ってほしい。